

通信ネットワークの復旧活動の状況

このたびの令和6年能登半島地震により被災された皆さんに、心からお見舞い申し上げます。

現在、自治体の災害対策本部や避難所などがある重要なエリアを優先しながら、通信ネットワークの早期復旧に取り組んでいます。

※発災後と現在（1月8日時点）の復旧エリアマップの比較もご覧ください。

復旧体制

- ・災害対策本部を1月1日に設置し、各地域に復旧作業の拠点や仮設給油所の設置、人員や応急復旧機材などを配置しています。全国の各拠点からネットワーク・エンジニアを現地へ招集し復旧作業に取り組んでいる他、技術部門社員が後方支援班として物資の輸送や可搬型基地局の設営、可搬型発電機への給油作業などのサポート業務に従事し、日々500人以上の社員が復旧活動に取り組んでいます。
- ・奥能登を含む被災地にベースキャンプや仮設給油所などを設営している他、現地の状況に応じて他事業者への給油協力なども実施しています。
- ・石川県庁ヘリエゾンを派遣し自治体や各関連省庁、インフラ事業者との情報共有や復旧優先エリアの情報確認などを行う他、自衛隊や他の通信事業者とも密に連携しています。

活用機材および主な復旧活動（1月8日時点、今後も継続予定）

現地では車両での移動が困難な地域が多いことから、作業員が1人でも運搬できる機動性の高い小型機材による復旧が有効と判断し、可搬型衛星アンテナや可搬型発電機などを主に活用しながら復旧作業を行っています。また、可搬型衛星アンテナで衛星通信による暫定的な伝送路を確保することで、既存の基地局が本来カバーしているエリアを早期に回復させる取り組みを進めています。

■既存の基地局の伝送経路対策

- ・可搬型衛星アンテナ：36台（状況に応じて順次追加予定）

■既存の基地局の電源対策

- ・移動電源車・可搬型発電機（ガス発電機／連結タンク発電機など）：61台（状況に応じて順次追加予定）

■スポットエリアの補完

- ・移動基地局車・可搬型基地局：6台
- ・ドローン基地局：1台

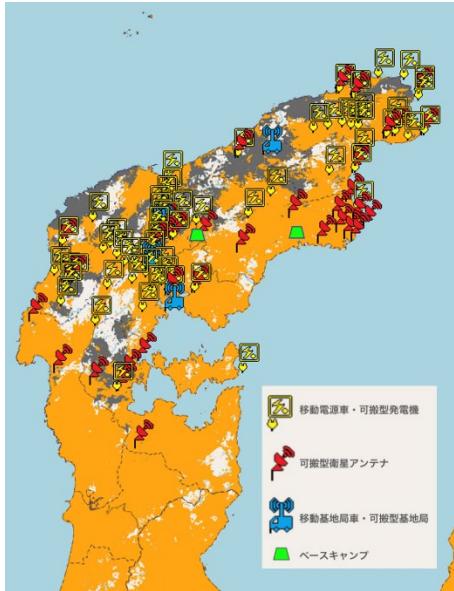
■情報の可視化による復旧活動の連携

- ・当社独自の災害対策用の社内情報連携システムを活用し、支障局の管理や、現地作業班、機材、物資の可視化・位置管理および現地とのコミュニケーションツールとして活用

■活動拠点数

- ・ベースキャンプ設置：輪島市三井町／鳳珠郡能登町

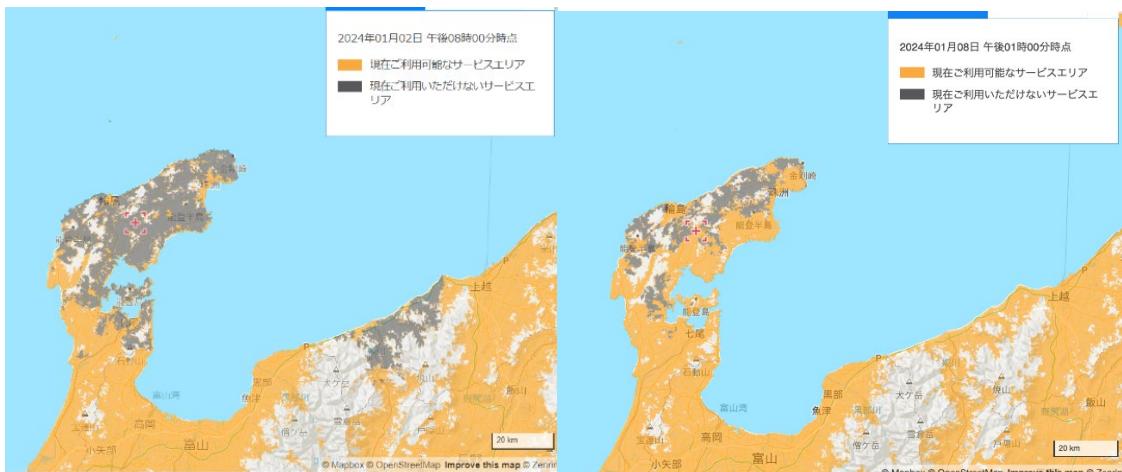
復旧活動の状況（1月8日午後5時時点）



■復旧エリアマップ

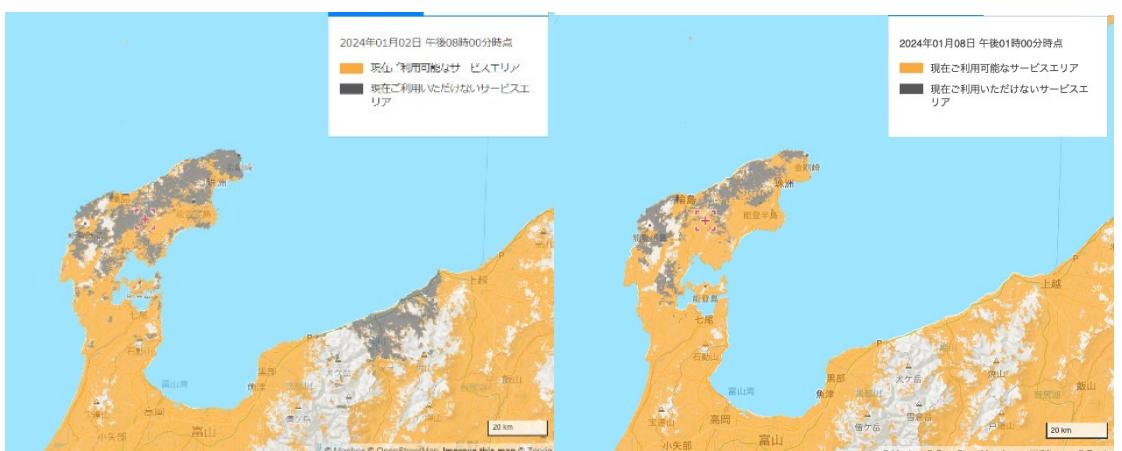
1月2日午後8時時点（左）と8日午後1時時点（右）の比較

・LTE



© Mapbox © OpenStreetMap Improve this map © Zenrin

・WCDMA（3G）



© Mapbox © OpenStreetMap Improve this map © Zenrin

■復旧活動の様子

- ・可搬型衛星アンテナ



- ・可搬型衛星アンテナの設置作業



- ・移動基地局車



- ・LPガス発電機の接続



・発電機への給油



・ベースキャンプ



・「有線給電ドローン無線中継システム」の基地局



また、被災地への支援として、以下の取り組みを行なっています。

詳細はこちら (https://www.softbank.jp/disaster/202401_01/) をご覧ください。

- 「ソフトバンク Wi-Fi スポット」無料開放
- 無料 Wi-Fi・充電サービスの提供（営業中のソフトバンクショップ・ワイモバイルショップや避難所など）
- 公的機関への端末貸し出し
 - ・携帯電話や充電器
 - ・「Starlink Business」の機材一式
- 各種サービスに関する支援措置
 - ・携帯電話・スマートフォン：データ追加購入料金の無償化、料金支払期限の延長、故障・修理費用減免
 - ・インターネット・固定電話：料金支払期限の延長、月額基本料金の減免、故障に伴う機器交換の無償化
 - ・でんき：料金支払期限の延長、料金の減免
- 令和6年能登半島地震災害支援金プロジェクトの実施
- 「WOTA BOX」を活用した被災者向けの入浴支援

• SoftBank およびソフトバンクの名称、ロゴは、日本国およびその他の国におけるソフトバンクグループ株式会社の登録商標または商標です。

• その他、このお知らせに記載されている会社名および製品・サービス名は、各社の登録商標または商標です。